



公文蘆淵《上巳重陽節句図屏風》 徳島市立徳島城博物館蔵

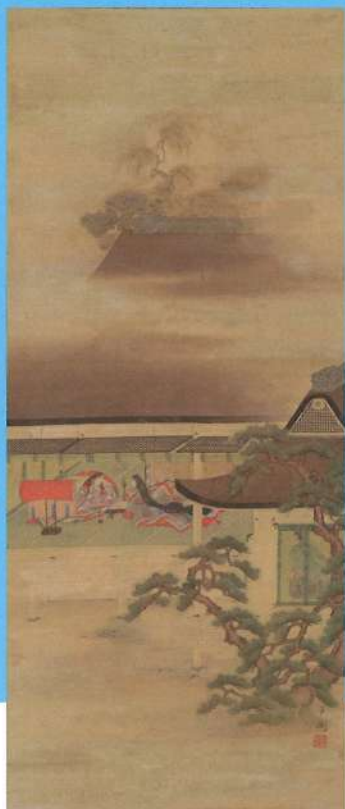
公文蘆淵

明治の徳島に生まれた公文蘆淵（くもん あしぶち（一八七六～一九四二）は、徳島藩御用絵師守住貫魚の門弟である森魚淵（なぶち）に師事し、住吉派を学んだ画人です。

明治から昭和初期にかけて、内国勸業博覧会や全国絵画共進会、文展や日本美術協会など幾多の展覧会に出品を重ね、入選を果たすなど旺盛な創作活動を続けました。傍ら郷里徳島の実業家、財界人とも交流を持ち、その注文に応えた作品制作も行っています。

今回の企画展では、わが国財界の重鎮で、徳島市名誉市民である原安三郎（一八八四～一九八二）の依頼により、蘆淵、ならびに歌人で書家の千葉胤明の両名がおよそ一〇年の歳月を費やして昭和一六年（一八四一）に完成させた《更級日記絵巻》が初公開されます（※）。さらに「住吉派の画道の復活」を祈念していた蘆淵の作品とともに、守住貫魚や森魚淵らの作品もあわせて展示することにより、近世から近代へと継承された阿波徳島ゆかりの住吉派画人の流れを紹介したいと思います。

※《更級日記絵巻》第一巻～第四巻の展示は、九月三日まで。



公文蘆淵《源氏物語 空蟬図》
個人蔵



公文蘆淵《養老勅使図》
個人蔵



森 魚淵《旭日静波図》
徳島市立徳島城博物館蔵

徳島県立近代美術館では
特別展「原安三郎コレクション 北斎
×広重」を2026年7月25日（土）—
9月23日（水・祝）に開催。
《更級日記絵巻》全15巻のうち、第5
巻以降が展示されるほか、原安三郎氏
が蒐集した貴重な浮世絵コレクション
が展示されます。

守住貫魚《養老勅使図》
個人蔵



公文蘆淵《鶏合図》
個人蔵